

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察防除情報第15号

たまねぎ ボトリチス葉枯症（小菌核腐敗病・灰色かび病）の防除対策について

たまねぎ（早生）において、ボトリチス葉枯症の発生が平年より多く見られています。

本病は、下葉に白色・長円形の白色斑点を生じ、しだいに上葉に広がっており、また、白色斑点を生じないで葉の先端から褐色となって枯れる症状も見られます（写真1、2）。今後の気象条件によってはさらに発生が増加し、たまねぎの生育・収量への影響が心配されますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 2月後期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は5.3%（過去7か年平均 0.9%）、発生圃場率は75.0%（同 6.4%）と平年より高かった（図1、2）。
- (2) 2月26日の県予察圃（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は66.0%（昨年同時期 発生を認めない）であった。
- (3) 2月の降水量（2/28時点）は151.5mmと平年（84.0mm）を大きく上回っている。また、気象予報（福岡管区气象台、令和6年2月29日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は少ない見込みであり、本病の発生に好適である。

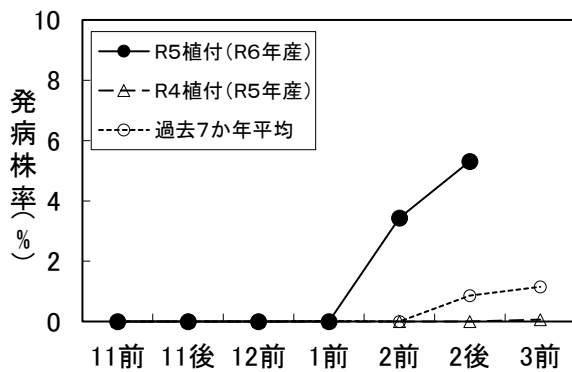


図1 ボトリチス葉枯症発病株率の推移

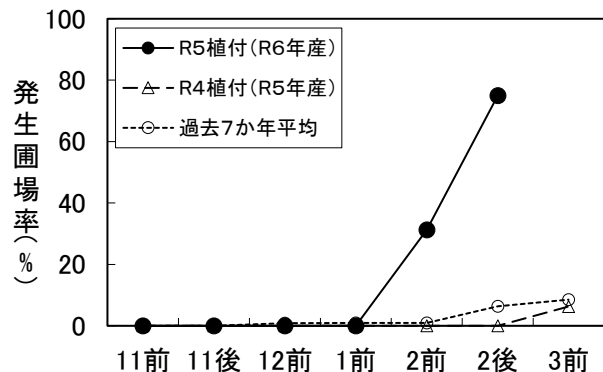


図2 ボトリチス葉枯症発生圃場率の推移



写真1 ボトリチス葉枯症感染株



写真2 ボトリチス葉枯症 白色斑点

2. 防除対策

- (1) 降雨が続くと発病が多くなるので、降雨後できるだけ早く薬剤で防除する。
 - (2) 発病初期の防除に重点を置き7～10日おきに薬剤を散布する。
 - (3) 被害植物の残渣は伝染源となるので、圃場内に放置せず、持ち出して適正に処分する。
 - (4) 薬剤耐性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P260～263の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
-

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所） TEL：0957-26-0027



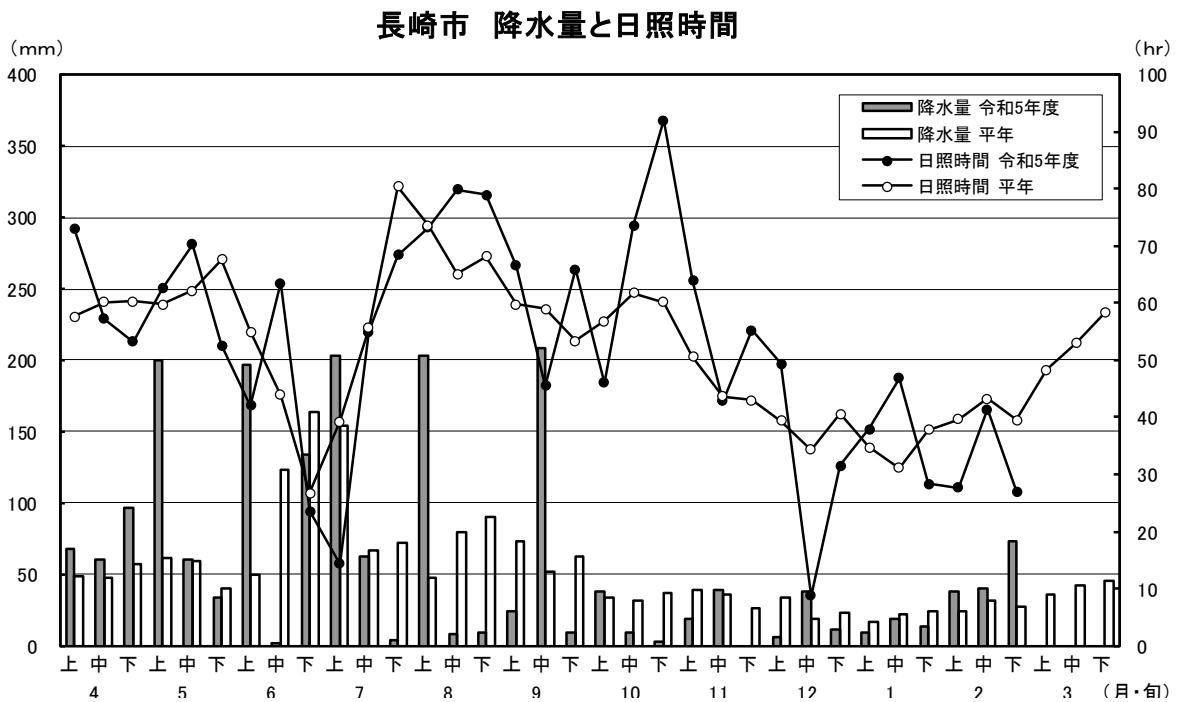
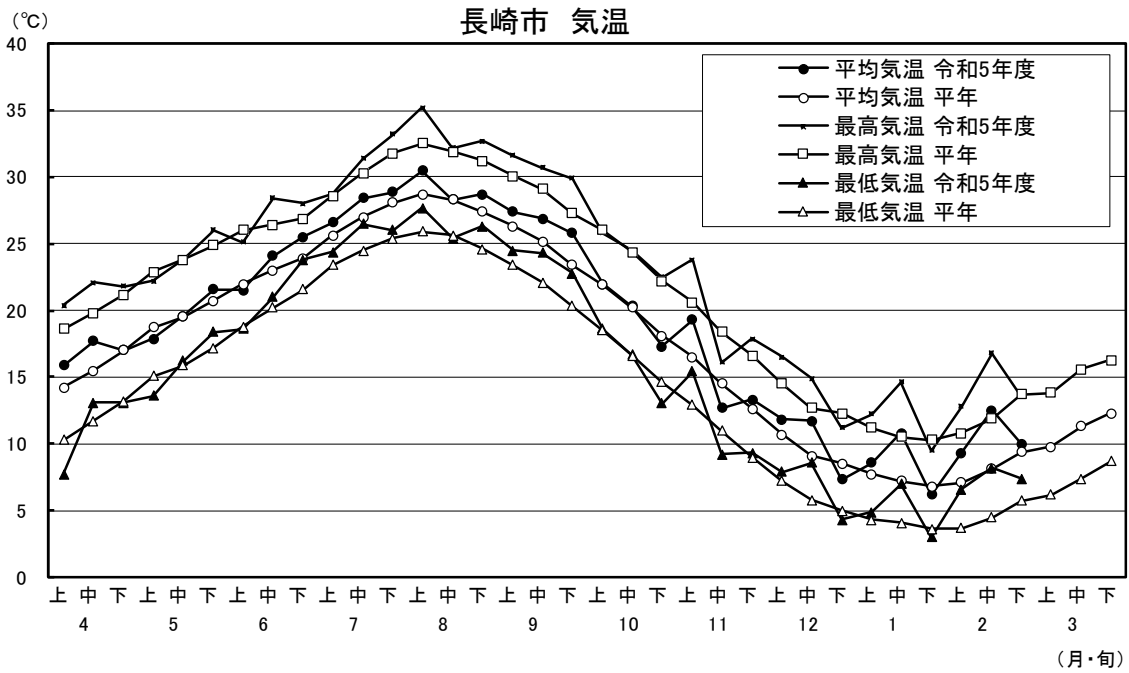
【参考】

(令和6年2月29日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和5年度の気象経過 (長崎地方气象台)



※気象データは2月28日時点